

研究報告の報告状況
(平成18年9月1日～平成18年12月31日)

資料No.3-6

	一般的名称	報告の概要
1	イトラコナゾール	イトラコナゾールの事前投与後にクロピドグレルを投与した際の血小板凝集抑制作用はCYP3A5 遺伝子多型により変化することが示唆された。
2	プソイドエフェドリン・クロルフェニラミン 含有一般用医薬品	クロルフェニラミンとプソイドエフェドリンの併用で、眼内圧上昇、血圧上昇、傾眠、前立腺肥大、視野不明瞭、子供の興奮といった副作用が起こることが示唆された。
3	下垂体性性腺刺激ホルモン(1)	一医療機関において、HMG療法やクロミフェン療法を施行すると品胎症例が増加し、切迫流産・早産や新生児の呼吸器合併症の可能性が高いことが示唆された。
4	硫酸サルブタモール	慢性閉塞性肺疾患をもつ患者にβ2刺激薬を使用すると、呼吸器起因性の死亡率が高まることが示唆された。
5	スピロラクトン	スピロラクトン投与患者において、上部胃腸出血や胃十二指腸潰瘍のリスク上昇が示された。
6	エストラジオール	プロゲステゲン併用ホルモン補充療法において、子宮体癌のリスク上昇が示唆された。
7	塩酸イリノテカン	進行性結腸直腸癌患者を対象とした無作為割付臨床試験において、イリノテカン／オキサリプラチン群のUGT1A1*28(7/7)型を持つ患者で好中球減少が有意に多いことが示唆された。
8	リネゾリド	高度腎機能障害患者にリネゾリドを投与したところ、薬物消失半減期の延長が認められた。
9	ゲフィチニブ	進行/再発非小細胞肺癌患者を対象としたコホート内ケースコントロール研究において、化学療法群に比べて、ゲフィチニブ投与群で3.23倍間質性肺炎の発症リスクが高く、特に治療開始4週間以内のリスクが高かった。
10	ジクロフェナクナトリウム	急性心筋梗塞の既往歴のある患者では、COX-2阻害薬や高濃度のジクロフェナクやイブプロフェンの服用で死亡率が上昇することが示唆された。
11	メトレキサート	多発性硬化症(MS)患者を対象としたケースコントロール研究において、50歳以上の再発寛解型MSと二次進行型MS患者でメトレキサートによる発がんリスクが高まることを示唆された。
12	ジゴキシン	心不全患者にカルベジロールとジゴキシンを併用投与した結果、男性群ではジゴキシンのAUC、Cmaxが上昇した。
13	ガドジアミド水和物	腎原性繊維症患者13例において、全例で末期腎疾患に罹患し、ガドジアミドが投与されていた。
14	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクの投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることを示唆された。
15	非ピリン系感冒剤(2)	小児において、パラセタモール(アセトアミノフェン)の過量投与により重度の肝毒性が生じることが示唆された。
16	ロラタジン	妊娠初期のロラタジン使用は新生児尿道下裂のリスクを増加させないことが示唆された。
17	インドメタシン	早産治療を目的として妊婦にインドメタシンを投与すると、新生児で嚢胞性脳質周囲白質軟化症の発生率が高まることを示唆された。

	一般的名称	報告の概要
18	塩酸バラシクロビル	日本人腎透析患者を対象とした製造販売後臨床試験において、バラシクロビル単回経口投与時のAUCinfやt1/2が外国人データに比べて高値であった。
19	オメプラゾール	高用量メトトレキサートとオメプラゾール、ランソプラゾールを併用している患者で、メトトレキサートとその代謝物(7-OH-MTX)の血中濃度が上昇することが示唆された。
20	エストロゲン〔結合型〕	閉経後の女性に結合型エストロゲンを単独投与すると、虚血性脳卒中発症のリスクが高まることが示唆された。
21	硫酸クロピドグレル	経皮的冠動脈インターベンション後のステント血栓予防の目的で投与されたクロピドグレルとアトルバスタチンあるいはCYP3A4阻害剤との併用により、心血管系副作用の発現率が上昇することが示唆された。
22	トリアゾラム	グレープフルーツジュースの長期暴露によって、CYP3A4阻害作用によるトリアゾラムのAUCの上昇が見られた。これは急性暴露時と同程度の作用であった。
23	トリアゾラム	グレープフルーツジュースの併用によるAUCの上昇は、CYP3A4に代謝されるトリアゾラムの方が、CYP3A4とCYP2C9で代謝されるクアゼパムより高かった。
24	メトトレキサート	再発B前駆細胞性急性リンパ芽球性白血病小児患者を対象としたコホート研究において、2次発がんの発生を含む治療関連死42例が認められた。
25	メトトレキサート	原発性中枢神経系リンパ腫の高齢患者に対する初期テモゾロミド/メトトレキサート療法において、1例が腸閉塞発症後に死亡に至った。
26	塩酸ミキサントロン	ミキサントロンによる治療を受けた多発性硬化症患者802例を対象としたコホート研究において、治療関連性白血病が2例発生したことが報告された。
27	塩酸ミキサントロン	悪化中の多発性硬化症患者509人を対象としたコホート研究において、治療関連性白血病の発生が1例報告された。
28	塩酸ミキサントロン	急性骨髄性白血病あるいは高リスク骨髄異型性症候群患者に対するシタラビンとミトキサントロンの投与により死亡例が報告された。
29	塩酸ミキサントロン	活動性悪化性再発限局性多発性硬化症患者100例を対象としたコホート研究において、急性骨髄性白血病が1例発生したことが報告された。
30	硫酸ビンクリスチン	ホジキンリンパ腫患者を対象とした無作為割付試験において、EBVP療法(エールピシン、フレオマイシン、ビンブラスチン、プレドニゾン)やMOPP/ABV hybrid(メロレクタミン、ビンクリスチン、プロカルバジン、プレドニゾン、ドキソルビシン、フレオマイシン、ビンブラスチン)により27例に2次がん(急性白血病/骨髄異型性症候群、非ホジキンリンパ腫、固形がん)が発生し、18例が死亡に至った。
31	フロセミド	心不全患者において、ループ利尿薬を160mg/日使用すると、0-40mg/日使用する場合に比べ、死亡率が高くなることが示唆された。
32	インドメタシン	超低出生体重時へのインドメタシンとデキサメタゾンの併用は、特発性腸管穿孔のリスクを高めることが示唆された。
33	シクロホスファミド	非ホジキンリンパ腫患者を対象としたコホート研究において、CHOP療法を受けた患者群で白血病、肺癌、結腸直腸癌のリスクが高いことが示唆された。
34	テモゾロミド	テモゾロミドの安全性データベースでの集積症例検討において、テモゾロミド服用によりSJSやTENを発症する可能性を完全に否定することはできないことが示された。

	一般的名称	報告の概要
35	リスベリドン	リスベリドンを含む抗精神病薬投与群の糖尿病発現リスクは、非投与群に比べて高いことが示唆された。
36	プラノプロフェン	妊娠初期にNSAIDsを処方された場合、新生児での先天異常、特に心臓中隔欠損のリスクが高まることが示唆された。
37	イトラコナゾール	肺移植患者において、イトラコナゾールとシクロスポリンの併用により、シクロスポリンのCo-Cmax間が有意に上昇することが示唆された。
38	シロドシン	AUA(米国泌尿器科学会)及びASCRS(米国白内障屈折矯正手術学会)は、 α ブロッカーを服用中または過去に服用していた患者は、手術前に眼科医にその旨を告げ、眼科医はIFISに注意を行うようとの注意喚起を行った。
39	エストラジオール	エストロゲンとテストステロン併用による閉経後ホルモン補充療法により、乳癌のリスクが高まることが示唆された。
40	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクの投与により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
41	クエン酸タモキシフェン	ホルモン療法開始前に子宮内膜増殖症を発症している閉経後エストロゲン受容体陽性乳癌患者を対象とした観察研究において、タモキシフェン投与中に子宮内膜腺癌が発生した。
42	インターフェロン アルファ(NAMALWA)	製造工程・処方の一部変更承認申請を行う予定である新製剤のラット脳室内投与試験において、新製剤群および現行製剤(対照)群で、脳室における慢性炎症の増強ならびに脳・頸髄の血管周囲炎症の増強が示唆された。
43	インスリン グラルギン(遺伝子組換え)	2型糖尿病患者において、インスリン使用者はインスリン非使用者に比べて高血圧発現のリスクが高まることが示唆された。
44	塩酸フェキソフェナジン	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、フェキソフェナジン投与群とイトラコナゾール+フェキソフェナジン投与群を比較したところ、6日間の併用投与期間においては非時間依存的なフェキソフェナジンの曝露量増加が認められた。
45	メトレキサート	乳児の急性リンパ性白血病に対するメトレキサート療法において、115例中19件の感染関連死亡が認められた。
46	エポエチン α (遺伝子組換え)	早期産児および低出生体重児に対するエリスロポエチン早期投与の有効性・安全性を評価することを目的とし、コクランライブラリー等の系統的レビューを行なったところ、エリスロポエチン投与群でステージ3以上の未熟児網膜症のリスクが有意に上昇した。
47	エポエチン α (遺伝子組換え)	早期産児および低出生体重児に対するエリスロポエチン早期投与開始(生後8日以前)および後期投与開始(生後8~28日)の有効性・安全性を評価することを目的とし、コクランライブラリー等の系統的レビューを行なったところ、エリスロポエチン早期投与群で後期投与群に比べて未熟児網膜症のリスクが有意に上昇した。
48	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	髄膜腫が発現した女性において、経口避妊薬はプロゲステロンレセプターの少ない髄膜腫のリスク増加と関連があることが示唆された。
49	アトルバスタチンカルシウム	脂質低下剤誘発性のミオパシー患者において、潜在的な代謝性筋疾患を有する患者の割合が有意に高かった。

	一般的名称	報告の概要
50	ムロモナブ-CD3	死体腸管移植術を受けた小児患者を対象としたプロスペクティブ研究において、ムロモナブ-CD3投与が移植後リンパ増殖性疾患発現のリスクを高めることが示唆された。
51	ミコナゾール	ヒト由来細胞を用いた検討において、アゾール系薬剤がヒトグルココルチコイド受容体(hGH)のアンタゴニスト作用を持つという新たなメカニズムによって薬物代謝等に影響を与える可能性が示された。
52	メトレキサート	成人急性リンパ芽球性白血病患者に対するメトレキサートを含む寛解導入療法施行中に治療関連死が報告された。
53	塩酸ミトキサントロン	進行性慢性白血病患者を対象としたプロスペクティブ研究において、クラドリビン単独、クラドリビン+シクロホスファミド、クラドリビン+シクロホスファミド+ミトキサントロン治療群で、それぞれ2例(1%)、6例(4%)、7例(4%)の2次発がんが認められた。
54	塩酸チクロピジン	有機陰イオン輸送ポリペプチド(OATP-B)の強力な阻害剤であるメシル酸エルゴロイドとチクロピジンの併用により、チクロピジンのAUC、Cmaxがそれぞれ約30%減少することが示唆された。
55	フロセミド	心不全患者において、ループ利尿薬を160mg/日使用すると、0-40mg/日使用する場合に比べ、死亡率が高くなることが示唆された。
56	フロセミド	フロセミドと塩酸モザパブタンの併用により、脱水の発現する可能性が示唆された。
57	オメプラゾール	健康な成人に対しサキナビル/リトナビル合剤とオメプラゾールを併用したところ、サキナビルのAUCが上昇した。
58	スピロラクソン	スピロラクソン投与患者において、上部胃腸出血や胃十二指腸潰瘍のリスク上昇が示された。
59	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の使用経験者において、子宮頸がん発症のリスクが高まることが示唆された。
60	オメプラゾール	健康な成人に対しサキナビル/リトナビル合剤とオメプラゾールを併用したところ、サキナビルのAUCが上昇した。
61	エストラジオール	プロゲステゲン併用ホルモン補充療法において、子宮体癌のリスク上昇が示唆された。
62	塩酸ゲムシタビン	非小細胞肺癌に対する塩酸ゲムシタビンとドセタキセルの術後補助化学療法におけるGrade3/4の好中球減少の発現頻度が、切除不能肺癌に対する同一レジメンでの化学療法に比べて高いことが示唆された。
63	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェンを投与されていると推定される閉経後女性乳癌患者を対象としたコホート研究において、タモキシフェン投与と非嚙門部腺癌リスクの関連性が示唆された。
64	アトルバスタチンカルシウム	経皮的冠動脈形成術後にクロピドグレルを処方された患者において、CYP3A4代謝性のアトルバスタチンを処方されていた群で心血管イベント発現が高くなることが示された。
65	クエン酸シルденаフィル	勃起不全治療薬であるシルденаフィル、タダラフィル、バルデナフィルの使用による、薬剤起因性の視力喪失の危険性について警告に追記するべきという嘆願書。
66	ポリコナゾール	健康な非喫煙者を対象とした無作為化二重盲検2元クロスオーバー試験において、リトナビル(CYP3A4阻害剤)併用によるポリコナゾール血中濃度の上昇が、CYP2C19のpoor metabolizerでより大きいことが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
67	ホリナートカルシウム	手術不能または転移性の胃腺癌患者に対してfluorouracil/leucovorin療法にuridine analogを併用したところ、治療との因果関連を否定できない死亡例が2例認められた。
68	リスペリドン	双極性障害の患者において、リスペリドンを含む非定型抗精神病薬の投与は糖尿病の発現リスクを高めることが示唆された。
69	アプロチニン	病院データベースを利用したレトロスペクティブ調査において、冠動脈バイパス術施行者にアプロチニンを投与すると、死亡、重度の腎不全、急性心不全、卒中発作を増加させる可能性があることが示唆された。
70	メトトレキサート	小血管壊死性血管炎に対するプレドニゾン/メトトレキサート併用において、間質性肺疾患による死亡例が1例報告された。
71	シスプラチン	フルオウラシル/シスプラチン併用療法を受けたがん患者において、サイトカイン(TNF α やIL-1,6,10,18, macrophage migration inhibitory factor) 遺伝子プロモーターの遺伝子多型が白血球減少症、好中球減少症、血小板減少症、口内炎と関連することが示唆された。
72	マレイン酸フルボキサミン	SSRIを投与された妊婦において、新生児が呼吸窮迫、低体重となる頻度の高いことが示唆された。
73	塩酸ドパミン	ICUに入院した患者において、ショックに対してドパミン投与を受けた群で、ICUでの死亡率、院内死亡率が高いことが示唆された。
74	マレイン酸フルボキサミン	SSRIを投与された妊婦において、新生児が呼吸窮迫、低体重となる頻度の高いことが示唆された。
75	イトラコナゾール	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、フェキソフェナジン投与群とイトラコナゾール+フェキソフェナジン投与群を比較したところ、6日間の併用投与期間においては非時間依存的なフェキソフェナジンの曝露量増加が認められた。
76	ホリナートカルシウム	進行・転移性の難治性結腸直腸癌患者に対するBevacizumab/Fluorouracil/Leucovorin併用療法後に4例の死亡例が報告された。また、Grade4の有害事象として好中球減少症、呼吸困難/呼吸器障害、感染症、AST/ALT/ビリルビン上昇が報告された。
77	ホリナートカルシウム	直腸癌に対して術前放射療法に術前あるいは術後のFluorouracil/Leucovorin併用療法を実施したところ、手術後あるいは術前化学療法後30日以内に12例の死亡が報告された。
78	ロスバスタチンカルシウム	HIV患者にロスバスタチンカルシウムとロピナビル・リナビルを併用すると、ロスバスタチンカルシウムのトラフ濃度が上昇することが示唆された。
79	リツキシマブ(遺伝子組換え)	非ホジキンリンパ腫患者において、CHOP群とリツキシマブ併用のR-CHOP群でPneumocystis jirovecii肺炎(PCP)合併について検討したところ、CHOP群で22例中PCPの合併はなかったが、R-CHOP群で43例中6例の併発がみられた。
80	ジクロフェナクナトリウム	23報のスタディのシステマティックレビューから、ジクロフェナクは通常投与量でも心血管イベントのリスクを上昇させることが示唆された。
81	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するirinotecan/oxaliplatin/fluorouracil/low dose folinic acid併用療法のPhase II試験において、発熱性好中球減少症とGrade4の下痢をおこし、死亡に至った例が1例報告された。
82	ジクロフェナクナトリウム	急性心筋梗塞の既往歴のある患者では、COX-2阻害薬や高濃度のジクロフェナクやイブプロフェンの服用で死亡率が上昇することが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
83	ホスフェストロール	マウスにおいて、ヒ素投与による経胎盤性肝細胞癌の発症が、仔へのホスフェストロール投与により促進されることが示唆された。
84	ケトプロフェン	ケトプロフェン、アセトアミノフェン、ジクロフェナク、インドメタシンの使用により、骨折発現のリスクが上昇した。
85	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロン ベータの精神神経系有害事象について、2005年1月までに報告されている研究を調査したところ、多くの研究では関連性が否定されていたが、少数例の患者、特にうつ病歴のある患者でうつ病のリスクが高いことが示唆された。
86	ソマトロピン(遺伝子組換え)	小児がん患者において、成長ホルモン(GH)の投与を受けた群は、2次性新生物発生率が上昇することが示唆された。
87	アセトアミノフェン	6-7歳の小児において、1歳までのアセトアミノフェン投与は喘鳴、鼻炎のリスクを上昇させ、1年以内の頻繁なアセトアミノフェン摂取は喘鳴、鼻炎、湿疹のリスクを上昇させることが示唆された。
88	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌23価莢膜ポリサッカライドワクチンは非菌血症性肺炎球菌性肺炎に対する予防効果を示さなかったことが報告された。
89	塩酸ゲムシタビン	進行非小細胞肺癌患者に対するvinorelbine/gemcitabine/docetaxel群とpaclitaxel/carboplatin群のランダム化第3相比較試験において、Grade4好中球減少(30vs53%)、Grade3/4末梢神経障害(2vs21%)、Grade3/4肺障害(9vs2%)で有意差がみとめられ、前群では肺臓炎での2例の治療関連死が報告された。
90	リツキシマブ(遺伝子組換え)	侵襲性および再発性非ホジキンリンパ腫患者に対する自己幹細胞移植前の高用量化学療法の前臨床試験において、LEED(melphalan,cyclophosphamide,etoposide,dexamethasone)群とリツキシマブをLEED前に投与するR-LEED群を比較したところ、Grade3-4の感染症がそれぞれ9例(34.6%)、11例(45.8%)が報告された。
91	酢酸ゴセレリン	局所進行性前立腺癌に対するゴナドトロピン放出ホルモン作動薬は、糖尿病、冠動脈疾患、心筋梗塞、心突然死の発現リスクを高めることが示唆された。
92	リツキシマブ(遺伝子組換え)	B細胞性非ホジキンリンパ腫患者の自己幹細胞移植後のリツキシマブ投与群、非投与群の比較を行ったところ、リツキシマブ投与群において、低 γ -グロブリン血症が多いことが報告された。
93	酢酸リューププロレリン	局所進行性前立腺癌に対するゴナドトロピン放出ホルモン作動薬は、糖尿病、冠動脈疾患、心筋梗塞、心突然死の発現リスクを高めることが示唆された。
94	エストラジオール	エストロゲンとテストステロン併用による閉経後ホルモン補充療法により、乳癌のリスクが高まることが示唆された。
95	イブプロフェン	インドメタシン、ジクロフェナク、ケトプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
96	デキサメタゾン	ホルモン治療抵抗性前立腺癌の患者に対しデキサメタゾンを含む化学療法を行ったところ、グレード3-4の深在性静脈血栓症、肺塞栓症、大腸炎悪化、下痢、糖尿病、疼痛、錯乱、てんかん発作などが認められ、2例が死亡した(うち1例は心原性ショックで死亡)。
97	シロドシン	シロドシン投与による射精障害には、膀胱頸部閉鎖不全、精嚢収縮不全、骨盤底筋群収縮不全などの様々な要素が関与していることが示唆された。

	一般的名称	報告の概要
98	アセトアミノフェン	6-7歳の小児において、1歳までのアセトアミノフェン投与は喘鳴、鼻炎のリスクを上昇させ、1年以内の頻繁なアセトアミノフェン摂取は喘鳴、鼻炎、湿疹のリスクを上昇させることが示唆された。
99	フェノバルビタールナトリウム	フェノバルビタール使用によりComplex regional pain syndrome type I (CRPS-1)を発症した6例において、非発症群と比較したところ年齢、投与量で有意差のあることが示唆された。
100	ジクロフェナクナトリウム	インドメタシン、ジクロフェナク、ケトプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
101	ホリナートカルシウム	進行・転移性の難治性結腸直腸癌患者に対するBevacizumab/Fluorouracil/Leucovorin併用療法後に4例の死亡例が報告された。また、Grade4の有害事象として好中球減少症、呼吸困難/呼吸器障害、感染症、AST/ALT/ビリルビン上昇が報告された。
102	メトトレキサート	一医療機関において見られたanaplastic variant of diffuse large B-cell lymphoma 5例中メトトレキサート投与との関連が考えられる例が2例あった。
103	塩酸クロミプラミン	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
104	ホリナートカルシウム	手術不能または転移性の胃腺癌患者に対してfluorouracil/leucovorin療法にPN401(uridine analog)を併用したところ、治療との因果関連を否定できない死亡例が2例認められた。
105	塩酸デラブリル	ACE阻害剤の長期使用(2ヶ月以上)は、腎機能障害を有する高齢者での造影剤腎症(CIN)発症の危険因子となることが示唆された。
106	シロドシン	ラットにシロドシンを投与し、射精障害に関する検討を行ったところ、1mg/kg投与群の大多数で着床が認められず、妊産率が低下することが示唆された。
107	ジクロフェナクナトリウム	23報のスタディのシステマティックレビューから、ジクロフェナクは通常投与量でも心血管イベントのリスクを上昇させることが示唆された。
108	ジクロフェナクナトリウム	インドメタシン、ジクロフェナク、ケトプロフェンの使用により、心筋梗塞発症のリスクが上昇することが示唆された。
109	シタラビン	単施設において移植後28日以内の重篤な心合併症をきたした9例のうち、5例でシタラビンを含む移植前処置を受けていたことが報告された。
110	ポリコナゾール	一医療機関におけるポリコナゾール投与例4例中2例が推奨血中濃度を超過しており、その2例のCYP2C19の遺伝子型がヘテロタイプであったことが報告された。
111	マレイン酸チモロール	緑内障、高眼圧患者に対し、ブリモニジン・チモロールの合剤とそれぞれの単剤投与における比較試験を行ったところ、チモロール単剤投与群で重篤な副作用(肺気腫に続く呼吸窮迫で入院、頻脈・発汗・悪心の発現)が2例起こった。
112	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	in vitro試験において、インターフェロン ベータの血清中和抗体を高濃度を含む血清がヒト星状細胞のサイトカイン/ケモカイン産生を抑制した。
113	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	インターフェロンベータはインターフェロンアルファよりうつ病になりにくい可能性が示唆された。

	一般的名称	報告の概要
114	ムロモナブ-CD3	一医療機関におけるレトロスペクティブ試験において、同索性肝移植患者に対するムロモナブ-CD3投与が移植後リンパ増殖性障害のリスクを高めることが示唆された。
115	塩酸ミトキサントロン	急性骨髄性白血病患者に対する大量シタラビン+ミトキサントロンの地固め療法中にカンジダ肺炎と急性心不全で死亡した2例が報告された。
116	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬服用者は、旅行により静脈血栓症のリスクが高まることが示唆された。
117	ジクロフェナクナトリウム	非選択的COX-2阻害剤による急性心筋梗塞に関する14文献をメタ分析したところ、ジクロフェナクとイブプロフェンの相対危険度と発症リスク上昇が見られた。
118	ジクロフェナクナトリウム	NSAID(ロフェコキシブ、セレコキシブ、イブプロフェン、ナプロキセン、ジクロフェナク)の処方記録から、処方回数による急性心筋梗塞の発症リスクを検討したところ、ジクロフェナクを10-19回、20回処方された群は、1回のみ処方群より相対リスクの上昇が見られた。
119	バルサルタン	ARBの大規模調査から、ACEと比較してARB使用による心筋梗塞発症リスクが高まることが示唆された。
120	レボフロキサシン	小児を対象とした治験において、対照薬(非フルオロキノロン系抗生物質)投与群と比較してレボフロキサシン投与群で特に関節痛が多く、軟骨病変との関連性が示唆された。
121	ホリナートカルシウム	直腸癌に対して術前放射療法と術前あるいは術後にFluorouracil/Leucovorin併用療法を実施したところ、手術後あるいは術前化学療法後30日以内に12例の死亡が報告された。
122	人血清アルブミン	急性虚血性脳卒中患者に対する大量ヒトアルブミン療法(1.03g/kg体重以上)で重篤な心房細動・肺水腫が報告された。
123	ランソプラゾール	ランソプラゾールの光学異性体のAmes試験を行ったところ、弱いながらも陽性の結果が得られた。
124	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌患者に対するBevacizumab/Fluorouracil/Leucovorin併用療法において、脳血管虚血による死亡と、Grade4の毒性として好中球減少症、嘔吐、鼻出血、肺塞栓症が報告された。
125	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者に対するFluorouracil/Leucovorin/Oxaliplatin併用療法における時間修飾療法と従来のFOLFOX2を比較したPhase III試験において、治療関連死がそれぞれ2例、1例認められた。 また、Grade3-4の毒性としては好中球減少症(7.9%,25.3%)、血液学的毒性(11.2%,29.3%)、下痢(29.5%,11%)、粘膜炎(14.8%,6.8%)、手足症候群(11.9%,1.8%)、無力症(15.8%,7.5%)、末梢神経障害(27%,29%)であった。
126	ワルファリンカリウム	非弁性心房細動患者においてキシメラガタンとワルファリンの大出血リスクを比較したところ、程度を問わない出血の年間罹患率・大出血の年間罹患率・24ヵ月の治療後の大出血累積罹患率がワルファリン治療において高かったことが報告された。 また、ワルファリン治療患者における出血リスク因子は肝疾患の既往、アスピリンの使用、75歳以上であった。
127	プロポフォール	プロポフォールが幼児での覚醒時激越発現に関与していることが示唆された。
128	クエン酸シルデナフィル	重度の閉塞性睡眠時無呼吸患者に対してシルデナフィルを投与したところ、呼吸障害・酸素飽和度低下回数の増加が示唆された。
129	エダラボン	ラットにおいて、ピロカルピン誘発性痙攣モデルにエダラボンを腹腔内投与すると、痙攣重積率が高ることが示唆された。